



学生数/約13700人  
 学部/国際教養、文、法政経、教育、理、工、園芸、医、薬、看護  
 大学院/人文公共学府、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、総合国際学位プログラム  
 THE世界大学ランキング2022/1001-1200位、同インパクトランキング2021/401-600位、  
 同アジアランキング2021/251-300位、

CASE STUDY

# 課題解決型のグローバル人材育成 →オンラインを併用した「全員留学」の実現

## 千葉大学

2020年度入学者より学部生および大学院生全員の海外留学を義務付けた千葉大学。同大学の考えるグローバル人材像と、それを育成するための教育の工夫について聞く。



副学長(教育改革)  
**小澤 弘明**  
 おざわひろあき ● 1987年東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程博士課程単位取得退学。1996年千葉大学文学部助教授、2003年同教授を経て2016年より国際教養学部長。2014年より現職。専門は歴史学、国際関係論。

### グローバル課題の解決に 取り組む人材を育成

本学は、2020年度より学部・大学院生の全員留学をめざす「グローバル人材育成\*ENGINE」をスタートさせました。これは2016年に設置した国際教養学部を中心に取り組み、成果が出つつあるグローバル人材育成戦略を全学に拡大させたものです。

われわれが想定するグローバル人材は課題解決型の人材です。近年、世界規模の環境問題や移民問題など、さまざまな社会問題が顕在化しており、国という枠組みを越えた協働が必要になっていきます。こうした時代には、既存の学問分野から問題にアプローチするのではなく、現実のイシューから出発して解決策を考えていける人間が求められます。そこで本学では、文理を問わない広範な知識と

視点を育む「文理混合型の教育」、現実の課題に対して実践しながら解決策を探る「アクティブラーニング」、社会貢献や社会実装を見据えた「ソーシヤルラーニング」の3点をグローバル人材育成の柱に据えました。留学はこれらを加速させるしくみの一つであり、留学それ自体を目的としているわけではありません。

開始初年度の2020年度は、コロナ禍により海外派遣ができませんでした。そのため、オンラインを活用した代替プログラムを提供しています。これは、元々構築していた、病気等で海外留学に行けない学生や留学中の学生でも本学の科目を履修できるスマート・ラーニングのしくみを応用したものです。これによりコロナ禍への対応もスムーズに行えました。

### ハイフレックス型等の 新たな留学の形を模索

2021年秋からは学生の海外派遣を再開しました。今はリアル留学/オンライン留学の二者択一になっていますが、今後は留学においても、対面とメディア授業を併用するハイブリッド型、あるいは同じ授業を対面とオンラインの双方で受講できるハイフレックス

型を取り入れることを検討しています。とはいえ、留学の本来の狙いは、海外に身を置き社会的な体験から気づきを得ること。現地留学にはオンラインでは得難い体験も間違いなくあるので、今後も現地留学を推奨していきます。

また、教育だけでなく、研究でも文理混合を促進すべく、大学院に「総合国際学位プログラム」を設置しました。「移民・難民研究」「科学技術社会論」「環境科学」をそれぞれ学修しつつ、学生自身が自律的に研究計画を立案するセルフ・デザインド・メジャーというしくみを取り入れています。学部生も留学等を通じて自分で研究テーマを設定して履修科目を選定できるのが理想ですが、そこまでなかなか難しいでしょう。そこで、典型的なグローバルイシューを体系的に学修できる履修パッケージの用意も検討しています。

ENGINEの構想段階では、学内から「受験生に敬遠されるのではないか」という意見も出ましたが、受験生が減ることはありませんでした。逆に「全員留学」を宣言したことで、これからは高校生がそれを前提に入学してくるようになりそうです。このような入学者の期待に応えるべく、留学支援の取り組みを拡充していきます。

\* Enhanced Network for Global Innovative Education

取材・文/本間学 撮影/亀井宏昭

## ポストコロナに向けての取り組み

- ▶ 現地派遣+オンライン授業も交えたハイブリッド型およびハイフレックス型の留学システムの構築
- ▶ 学部生向けのグローバルイシューを体系的に学ぶ履修プログラムの検討

### BEFOREコロナ

#### ▶ 学部生・大学院生「全員留学」

全ての学生に在学中1回以上の海外留学を義務付け。学部生には80以上の多様なプログラムを提供。

#### ▶ どこでも学べるスマート・ラーニング

留年などの不安がなく留学できるよう、ICTを活用した学習環境を整備し、留学中でも必要に応じて千葉大学の科目履修を継続できるしくみを構築。

#### ▶ 大学院に総合国際学位プログラムを設置

国際的な社会課題に対して文理混合で自律的に研究に取り組むしくみ。

### AFTERコロナ

#### ▶ より充実した「全員留学」の再開

コロナ禍で実施したオンライン留学の内容を利用し、実留学へ展開。さらにオンラインでしかできない国への留学も存続。

#### ▶ ハイブリッド型、ハイフレックス型の授業や留学の展開

スマート・ラーニングを進化させ、留学や授業でハイブリッド型、ハイフレックス型のオンライン併用に着手。

#### ▶ 学部にも国際的な課題を体系的に学ぶ履修パッケージを整備

例えば「移民・難民」という課題では、国際政治学等に加え、移民・難民の健康や教育をカバーする科目も合わせてパッケージ化する、など。

## 注目! 現地留学に迫る体験を提供するオンライン留学プログラム

コロナ禍で海外渡航が制限される中、留学の緊急代替措置として注目を集めた「オンライン留学」。千葉大学でもイギリス・ヨーク大学と協働してプログラムを進めている。

同大学が実施したオンライン留学は英語研修やテーマ学修だけでなく、文化体験や授業外活動を含めたプログラムを組んだのが特徴。ヨーク市内のバーチャルツアーや、SNS等を活用したイベントへの参加、オンラインによるホストファミリーとの交流など、学修以外の体験も充実させている。小澤副学長は「オンラインであっても、リアルな留学で体験できることに可能な限り近づけたかった」と話す。実際に参加した学生からは、「期待していたよりもさまざまなことが学べ、現地の人との交流も楽しかった。実際に渡航したいと思った」「英語での講義を受けるだけでなく、ディスカッションやプレゼンテーション、エッセイの提出などの機会があり、よい経験になった」という声も聞かれ、とても好評だったという。

同大学が2021年8月～9月に実施したオンライン留学プログラムの数は24。実施国は欧米のほか、パナマ、エクアドル、ウガンダなど16か国に上る。これまで距離や治安の問題から渡航が難しかった国との交流も実現できるメリットもあり、オンラインでしかできない留学を存続させていく考えだ。

### ヨーク大学とのプログラム例(1週目)

月	Welcome & Orientation Language and Culture 1: Understanding Britain
火	Introduction to Research Project Virtual Tour of York Social Event
水	Research Project: Writing Questions Academic Skills 1 International Communication Session
木	Language and Culture 2: Introduction to Harry Potter Architecture of York 1 Social Event
金	Research Project: Creating a Website Weekly Wrap
土・日	Meeting with Host Families Preparing for Research Project (asynchronous)